

住民自治協議会だより

第8号

発行：小田切地区住民自治協議会 自治協だより編集委員会

やまざと支援交付金事業

地域活性化推進員 岡澤 芳文

1. 買物支援事業について

買物支援の登録会員は6世帯で、現在までに7件出動した。アンケート調査では買物に不便と11パーセントの住民が答えるが、実際の利用者は1パーセントにも満たない。

地区の人や福祉関係の皆様が見守り活動に奉仕するという姿もあるが、もっと頼られる自治協の事業として立上げたので遠慮せず活用されたい。

この事業は買物に悩む人、さらに孤立しがちな人達の安心と安全を確保する事にあります。

立上げ作業は6月から開始し、要綱・実施要領を作成し福祉委員会、福祉健康部会、区長会、自治協役員会で検討を重ね、利用者の募集を行なった。

11月には三地区（七二会、中条、小田切）の個別事業の取組みについて研究発表の交流会があり、小田切地区の、この買物支援事業を発表した。事業の為に使用する軽ワゴン車をリースし11月21日に出立式を行い、それは市民新聞に掲載された。そして12月から本格的に運用が始まった。

2. やまざと支援交付金とは

やまざと支援交付金の趣旨は中山間地特有の課題解決と自助・共助の機能向上にあり、活性化推進員の役割は交付金事業の推進にある。

やまざと支援交付金事業は総枠180万円であり、その中で、活性化推進員の人件費は120万円まで設定でき、何人でも雇用出来るが今年度は二人で任に当たる事として80万円に決定した。残り100万円を事業費に充当した。

事業の種類は大きく三事業に別けられるが、四年前から続く生活支援事業と福祉自動車運転支援がある。福祉自動車運行事業は1人だけの利用であっても病院

に送迎する、地区にとって廃止する事の出来ない存在になっている。その運転ボランティアを支えるのが運転支援事業である。これに習い、買物支援事業もゆくゆくは併合可能と考える。

地区毎の生活支援員による草刈りや除雪に代表される道路清掃がある。支援のやり方については当初戸惑いがあったが、年々その重要性が増している。各区とも、それまでの区総出の道路愛護の形態は取れ難くなっていて人員の確保は困難になりつつある。さらに区単位を越えた対応が必要となるだろうが生活支援事業はそれを支える。

小田切地区住民自治協議会は、基本的に住所がこの地区にある世帯・事業所の集まりである。その利害調整、集約は一般法人の比では無い。自治と名称が付いたのだから、当然3点セット（司法・立法・行政）の体を成したい。

次の世代に何が残せるか。人口が増え続ける事は出来ない。住む場所は限り在る。雪も降るし、隕石も降る。

安心安全安住の里はなかなか得がたいが、皆で考えていきましょう。



耕作放棄地が畑に蘇みがえりました

“うんめえ塾”に市から補助金100万円

塾長 酒井 昌之

小田切うんめえ塾は24年11月23日～25日まで行った野沢菜収穫ツアーとそば打ち体験で第1期を終了しました。

この“うんめえ塾”は24年5月、市の地域やる気支援補助金事業に応募し、100万円の交付をうけて小野平の耕作放棄地37アールを復元し、ここを舞台に市内から塾生を招き農業体験行ったものです。

延べ400人が参加、収入は約23万円

同塾には、塾生が延べ230人、地元から指導などで170人あわせて400人の方々が参加して頂きました。

中でも野沢菜採りツアーには55人、そば打ち体験には57人が参加し、売上げ高は野沢菜・大根が48,820円、そば打ち体験56,600円、小野平霧下そばとネーミングした蕎麦粉で103,000円、また受講料で21,400円となりました。

補助金の交付が決定してから約3ヶ月の準備でどのようなのか心配でしたが、地元小野平集落の皆様、遊休農地活性化委員会、住民自治協議会、後援していただいた信濃毎日新聞、長野市民新聞、NBS、SBC、TBS、ABN、NHKのご支援、ご協力により無事に終了することができました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

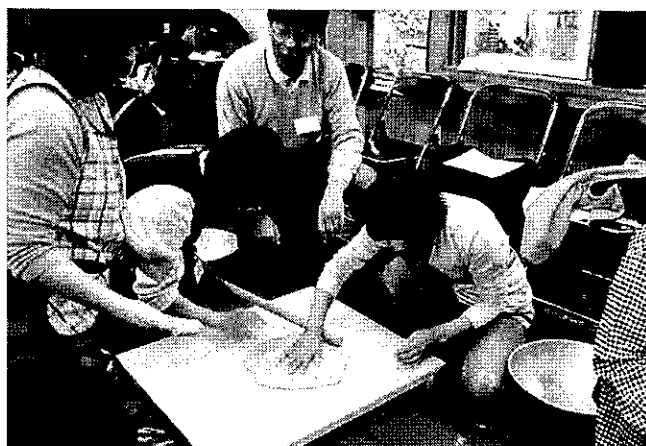
メニューは4コース

同塾で行った農業体験は以下の通りです

- A. 野沢菜・大根栽培コース
- B. 野沢菜・大根採りツアー
- C. そば栽培コース
- D. そば打ち体験コース

情報発信は16回

同塾の作業内容などはテレビと信濃毎日新聞、長野市民新聞、毎日新聞、日本農業新聞、JAながの「ピビット」1月号等で紹介され合計16回に及びました。



報道は塾生と指導にあたった地元の遊休農地活性化委員会の皆様のみならず転居された方々にも話題となり交流が深まりました。

特に、信濃毎日新聞、長野市民新聞は塾生募集から野沢菜採りツアー、そば打ち体験などのイベント情報も報道していただき、大きな力となりました。

このほか、昭和29年小田切中学校を卒業された寺沢信子さんはご主人と夫婦で参加されましたが、「信毎」建設標に「過疎地活性化に農業体験楽しみ」のタイトルで投稿し掲載され後押ししていただきました。

第2期うんめえ塾は4月からスタートします

第2期うんめえ塾は住民自治協議会の決定をへて2月17日の市やる気支援補助金事業公開選考委員会に応募し、内定しました。

この事により、第2期うんめえ塾は4月から昨年よりメニューを増やして行います。

枝豆や馬鈴薯栽培も…

メインはそば栽培と野沢菜・大根ですが、野沢菜・大根の前作として、枝豆と馬鈴薯栽培を取り入れました。スケジュールは以下の通りです。

- 4月 オリエンテーリング
塾生募集 開講式 馬鈴薯播種
- 6月 枝豆播種
- 7月 そば播種
- 8月 枝豆、馬鈴薯収穫
枝豆祭り
- 9月 野沢菜・大根播種
- 10月 そば収穫
- 11月 野沢菜・大根採りツアー
- 12月 そば打ち体験 閉講式

塾生を募集します。希望される方は住民自治協議会にお申し込みください。

☎ 229-3330

小田切分団に新しい消防車両配置される

長野市消防局 安茂里分署

平成24年度長野市消防団非常備消防装備事業における更新計画から小田切分署へ小型動力消防ポンプ付軽積載車が平成24年12月17日、長野市消防局において長野市消防団長から小田切分団長へ引き渡されました。以前の積載車は配置から20年以上が経過し、車両及び資機材等の老朽化が激しいことから平成24年度更新となったものです。

新しい小型動力ポンプ付軽積載車は総排気量が660cc軽四輪駆動消防自動車（デッキバンタイプ）で以前の車両がシングルキャビンタイプ（キャビン内2名乗車）であったものから乗車員の安全面を考慮しダブルキャビンタイプ（キャビン内4名乗車）となりました。

三地区(小田切・七二会・中条)交流会について

去る11月16日(金) 小田切地区が当番幹事として、小田切地区住民自治協議会主催の「小田切・七二会・中条」三地区交流会が開催されました。

(小田切地区26名・七二会地区19名・中条地区16名)の大勢の参加者により、研修会を支所2階で行ない、交流会を場所を移動し、小田切農村環境改善センターで行ないました。

研修会においては、各住民自治協議会からの活動報告として

- ・小田切地区活動紹介として
「買い物支援事業」……………岡澤地域活性化推進員
「うんめえ塾」……………塩入地域活性化推進員
- ・七二会地区活動紹介として
「地区の活性化をめざして」……………青木住自協会長
- ・中条地区活動紹介として
「社会福祉部会の活動について」…宮下社会福祉部会長
各地区パワーポイントによる活動紹介であり、中山間地域の共通課題に対し、独自の方法で事業展開をされている事がわかる有意義な研修会となりました。

また、その後の交流会においても、名札を付け、関係部会ごとに席を設営したことで、それぞれの情報交換がなされていました。次回は、七二会地区で開催されます。



た。また、動力ポンプは環境面と静粛性から2サイクルエンジンから4サイクルエンジンに変更となっています。

今後、地域皆様方の安全で安心して暮らせる街づくりにつながるよう、最新型の車両を十二分に活用し、火災予防や警防体制の向上に努めたいと思います。



小田切の健康を願って～血圧測定会～

保健師 土屋こずえ

小田切地区住民自治協議会福祉健康部会保健指導員会が企画する血圧測定会に出向かせていただきました。今年度は漬物の塩分量と飲み物の中の糖分の量のサンプルを持参し、地区の皆さんと勉強をさせていただく機会を設けました。地区の方から、漬物の塩分量を見て、「おら、こんなちっとの（塩の）漬物じゃ物足りね～わい」といった感想や、飲み物の中の砂糖の量を見て「飲み物の中に、こんなに砂糖が入っていたなんて驚いた」という感想がありました。他にも「食べる物、無くなっちゃうで。何でも食べねくっちゃうだい」といった感想も聞かれました。嗜好品として摂取する砂糖の量は成人であれば20g未満。ただし60歳以上は、血糖を下げるためのインスリンというホルモンが加齢と共に減少するので一日10g未満です。また一日の塩分摂取量は男性9g未満、女性7.5g未満です。塩分に限って言うと日本高血圧学会では、糖尿病や慢性腎臓病の人には、循環器病や腎不全の予防のためにも一日6g未満への減塩を推奨しています。食べてはいけない・飲んではいけないというのではなく、自分で自分の生活を振り返り、自分の体に合った健康維持に向けて、自分でコントロールする力をつけて欲しいと願っています。そのためにも、小田切地区の皆様方の健康の維持増進に向けて、今後もお手伝いさせていただければと考えています。「血液のデータが自分の体の状態を教えてください！」国民健康保険加入者の長野市国保特定健診の結果によって、保健師が自宅にお伺いすることもあります。健康のことを一緒に考えていければと思っています。

● ● ● 喜寿祝賀会 開催しました。 ● ● ●

今年は雪が多く、例年に比べても寒く厳しい冬でした。それでも、陽射しは春めいてきた3月6日(水)に福祉委員会では、恒例の喜寿祝賀会を干曲市の稻荷山温泉で開催しました。

今年の喜寿該当者は22名。そのうち13名が出席されました。当日は来賓役員を含めて参加者は30名でした。

祝賀式では酒井農業委員様から「生涯現役は素晴らしいこと。喜寿は100歳までのトレーニングと思って、くよくよせずにお金を使ってこれからもお元気で」とユーモアを交えて祝辞がありました。また、田中支所長様からも「はつらつとした喜寿の皆様方は、かけ替えのない地区の財産。これからもお元気で過ごしてください」と祝辞を頂きました。

該当者を代表して宮澤伸一さんからは「草鞋で学校へ通ったりして苦勞した昔もあるが、これからも小田切に住んで頑張りたい」と頼もしい謝辞をいただきました。

締めくくりは山上さんと西山さんのお祝いの謡と舞

踊がありました。

その後は祝賀会になり、和気藹々と楽しい時間が過ぎました。

喜寿は、還暦・古稀の次の長命のお祝いです。

今年の該当者の方々に来る米寿・白寿その先までもお元気で、小田切で暮らしていかれませう様にと祈ります。



● ● ● 歯科診療所の現況について ● ● ●

小田切支所長 田中 実

過日2月19日(火)小田切地区定例区長会の席上、小田切歯科診療所の運営を統括する、生活部医療事業課より職員2名(補佐・係長)による診療所の現況説明がありました。

- ・小田切園の閉園による受信者数の減少など需要の変化に対し、医療提供体制の見直しによる効率化を図る必要性。

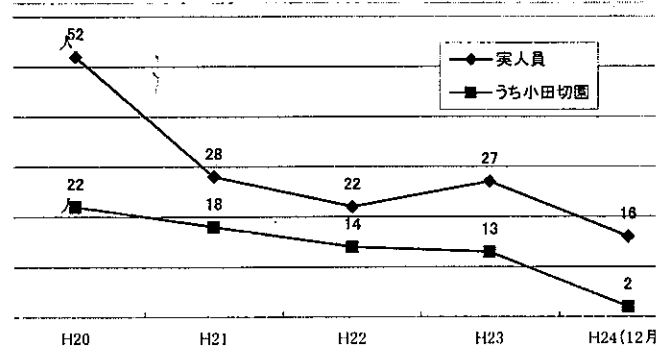
- ・予約がない場合の対応として、やむを得ず休診としている例が恒常的に発生している。

など、問題点と課題が示され、「今後の診療所のあり方について」住民自治協議会と医療事業課で協議していく事になりました。

実患者数のうち診療所全体と小田切園入所者患者数

年 度	20	21	22	23 (1月まで)	23 (3月まで)	24 (12月まで)
全体の実患者 (A)	52人	28人	22人	24人	27人	16人
内小田切園 入所者(B)	22人	18人	14人	13人	13人	2人
割 合 (B/A)	42.3%	64.3%	63.6%	54.2%	48.1%	12.5%

年度別実受診者の状況



(平成24年6月30日小田切園閉園)